

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年前期	3	2	選択
担当教員			
本多 明生			
添付ファイル			
講義概要			
心理学は、人間や動物の行動を通して、心の働きや仕組みを科学的に解明しようとする学問である。心理学は、直接観察できない心の評価・研究するために、その研究方法を工夫してきた。この授業では、心理学研究法と心理統計法に関する基礎的な事柄を学ぶ。そして、具体的な研究事例を通じて、心や行動を評価することの実際に関する理解を深める。 本科目はアントレプレナーシップ教育における情報収集力、分析力、探究心、コミュニケーション能力、課題発見力・解決力、データサイエンス、開発・評価に該当する内容を扱う。			
授業計画	1	心理学研究法の基礎1 ガイダンス、概念的定義と操作的定義 準備学習： ・シラバスを読むこと ・教科書第1章、第2章を読むこと 課題： ・概念的定義と操作的定義を説明する（AL①と②）	
	2	心理学研究法の基礎2 独立変数と従属変数、剰余変数とその統制、信頼性と妥当性 準備学習： ・教科書第2章、第3章を読むこと 課題： ・独立変数と従属変数、剰余変数とその統制、信頼性と妥当性を説明する（AL①と②）	
	3	心理学研究法の基礎3 因果関係と相関関係、研究デザイン 準備学習： ・教科書第1章、第2章、第3章を読むこと 課題： ・因果関係と相関関係、研究デザインを説明する（AL①と②）	
	4	心理学研究法の基礎4 研究倫理 準備学習： ・教科書第11章を読むこと 課題： ・研究倫理を説明する（AL①と②） ・ディベート（AL⑤） ・レポート（AL④）	
	5	心理評価法の実践1 文献検索法 ・関心のある研究キーワードをリストアップすること ・教科書第12章を読むこと 課題： ・プレゼンテーション候補となる研究論文を決定する（AL①と②）	
	6	心理統計法の基礎1 尺度水準、記述統計と推測統計、統計学の基本的な考え方、度数分布表、ヒストグラム 準備学習： ・教科書第1章、第2章、第10章を読むこと 課題： ・尺度水準、記述統計と推測統計を説明する（AL①と②） ・統計学の基本的な考え方、度数分布表、ヒストグラムを説明する（AL①と②） ・レポート（AL④）	
	7	心理統計法の基礎2 データの中心傾向と散らばりに関する指標 準備学習： ・教科書第1章、第2章、第10章を読むこと 課題： ・データの中心傾向と散らばりに関する指標を説明する（AL①と②） ・ディベート（AL⑤） ・レポート（AL④）	
	8	心理統計法の基礎3 統計学と正規分布、標準正規分布、標準化得点 準備学習： ・教科書第1章、第2章、第10章を読むこと 課題： ・統計学と正規分布、標準正規分布、標準化得点を説明する（AL①と②）	

	9	心理統計法の基礎4 点推定と区間推定, 統計的仮説検定, 有意水準と有意確率 準備学習: ・教科書第10章を読むこと 課題: ・点推定と区間推定, 帰無仮説と対立仮説, 有意水準と1有意確率を説明する (AL①と②) ・レポート (AL④)
	10	心理評価法の実際2 研究事例のプレゼンテーション1 準備学習: ・プレゼンテーション, ディスカッションの準備 ・関連研究に関する情報収集 課題: ・研究事例のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と③と④と⑤と⑥)
	11	心理評価法の実際3 実験法 準備学習: ・教科書第3章, 第4章を読むこと 課題: ・実験法を説明する (AL①と②) ・レポート (AL④)
	12	心理評価法の実際4 観察法 準備学習: ・教科書第7章を読むこと 課題: ・観察法を説明する (AL①と②)
	13	心理評価法の実際5 面接法 準備学習: ・教科書第8章を読むこと 課題: ・面接法を説明する (AL①と②) ・レポート (AL④)
	14	心理評価法の実際6 調査法 準備学習: ・教科書第5章, 第6章を読むこと 課題: ・調査法を説明する (AL①と②)
	15	心理評価法の実際7 研究事例のプレゼンテーション2 準備学習: ・プレゼンテーション, ディスカッションの準備 ・関連研究に関する情報収集 課題: ・研究事例のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と③と④と⑤と⑥)
	16	試験 試験とまとめ 準備学習: ・これまでの授業内容を復習しておくこと
授業形態	講義と演習 アクティブラーニング: ①:15回, ②:15回, ③:2回, ④:8回, ⑤:4回, ⑥:2回	
達成目標	(1) 心理学研究法の基本的な事柄を説明することができる。(基礎) (2) 心理統計法の基本的な事柄を説明することができる。(基礎) (3) 心理評価法の基本的な事柄を説明することができる。(基礎) (4) 心理学における具体的な研究事例の内容を説明することができる。(標準) (5) 人間行動を測定するための具体的な研究アイデアを提示することができる。(応用)	
評価方法・フィードバック	成績は, 平常点 (30%), 課題点 (30%), プレゼンテーション (20%), 試験成績 (20%) で評価する。平常点はリアクション・ペーパーをもとに評価する (15回×2点=30点 (%))。全15回のリアクション・ペーパーのうち, 未提出が6回以上あった場合, 達成目標に関する適切な成績評価が行えないことから, 成績評価は「不可」になるので注意すること。課題点は, 全6回の課題 (レポート, ピアレビュー等) をそれぞれ5点で評価する (6回×5点=30点 (%))。全6回の課題のうち, 未提出が3回以上あった場合, 達成目標に関する適切な成績評価が行えないことから, 成績評価は「不可」になるので注意すること。レポートとは, 基本的に, 自分の考えや主張を記述したもので, 他人に読んでもらうことを前提に, 一定期間内で作成するものである。したがって, この条件を守っていないレポート (締め切りを守らないなど) は, 評価ができなくなるので注意すること。また, レポートを作成する際, 論文・雑誌・新聞等を引用した場合は, 出典を明記すること。ピアレビューとは, 提出されたレポートを学生同士で評価する課題である。試験成績は, 問題予告型の論述試験 (持ち込み不可) の成績で評価する。試験を受けなかった場合, 達成目標に関する適切な成績評価が行えないことから, 成績評価は「不可」になるので注意すること。プレゼンテーションは, 各自がピックアップした研究論文の内容をパワーポイントで発表したものを評価する (2回×10点=20点 (%))。プレゼンテーションの課題を1回も提出しなかった場合, 達成目標に関する適切な成績評価が行えないことから, 成績評価は「不可」になるので注意すること。リアクション・ペーパーは授業終了後返却する。課題点とプレゼンテーションは採点結果をフィードバックする。試験答案は日時を決めて希望者には返却する。	
評価基準	秀 (1~5): 100~90, 優 (1~4): 89~80, 良 (1~3): 79~70, 可 (1~2): 69~60, 不可: 59以下 ただし, カッコ内は達成目標の項目を示す	

教科書・参考書	教科書：「心理学研究法（ライブラリ心理学の杜）」，本多明生・山本浩輔・柴田理瑛・北村美穂（共著），サイエンス社，ISBN-10：4781915396 参考書：「心理学研究法 補訂版」，高野 陽太郎・岡 隆(編集)，有斐閣アルマ，ISBN-10：4641220867
履修条件	認知・生命科学への誘い，基礎心理学を履修済であることが望ましい。
履修上の注意	(1) 第1回目の授業のときにガイダンスを行う。受講者は必ず出席すること。 (2) この授業では学生同士でディスカッションやプレゼンテーションを行う機会がある。受講者には主体的・積極的な参加を期待する。 (3) 授業ではディベートを行うので授業への参加に支障がない程度の日本語運用能力は必須である。 (4) レポートやピアレビュー等の成果は受講者で共有することがある。
準備学習と課題の内容	・事前準備として各授業回では2時間以上かけて授業内容の予習と復習を行うこと（合計30時間以上）。 ・プレゼンテーションは，他者が研究内容を正確に理解できるように，論文を精読して，しっかりと準備を行うこと（合計10時間以上）。 ・課題は最低でも2時間程度かけて大学生として相応しい内容にすること（合計10時間以上）。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:20%, 思考・判断:20%, 関心・意欲:20%, 態度:20%, 技能・表現:20%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	